

平成29年度地方創生推進交付金事業評価・検証シート

事業名	農を活かした産業連携による仕事創出推進事業				担当課	産業環境部農業振興課			
予算額	10,800,000円	決算額	10,800,000円	執行率	100%	交付額	5,400,000円	交付決定日	平成29年5月31日
地方創生総合戦略との関係性 【基本目標】 安定した雇用を創出するとともに、地域経済を活性化する。									
事業概要	農業と商工業・観光業が連携し、富田林寺内町などの観光資源を活用した市内消費の拡大、新たな販売チャンネルの開拓、農業体験型観光の開発、農業経営の改革の4つを柱に雇用創出のために市内の経済をはじめ地域の活性化を図る。								
実施内容	<p>1) 富田林のえび芋名物化プロジェクト</p> <p>① 集荷・選別・加工・流通体制の検討 新規生産者の育成をめざしたえび芋栽培委託、低規格品（小さい芋）の一次処理（洗い・選別）の試行、高規格品の京都市場への出荷の試行、親芋活用の試行</p> <p>② えび芋コロッケの生産・消費拡大 民間事業者との協働によるえび芋コロッケ製造過程の確立、販売店の開設とえび芋コロッケ等の販売、イベント時（農業祭、寺内町鍋めぐり、寺内町雛めぐり）でのえび芋コロッケ販売</p> <p>③ えび芋の試作加工 ワインソムリエ（協議会アドバイザー）によるえび芋等産地産野菜料理の試作、えび芋定番料理「いも棒」の試作とイベント時（じないまち鍋めぐり）での販売</p> <p>④ えび芋について、市内外の飲食店等への販路開拓を行う。 農林水産省事業「いいもん・うまいもん・大阪産ツアー」（※）への参画 ※全国（主に首都圏）のバイヤーとのマッチング、産地ツアー、東京等での展示商談会開催</p> <p>⑤ えび芋の普及・PRに向けた事業を行う。 販売店の開設と販売、「富田林コロッケ」ロゴデザイン制作、チラシ制作と配布、近鉄電車での中吊り広告</p> <p>⑥ えび芋生産の農業塾の開催 ベテラン農家による実地栽培指導、栽培マニュアルの作成</p> <p>⑦ えび芋研究会の運営 「富田林えび芋」の差別化・ブランド化をめざしたG I 認証（※）申請 ※地理的表示保護制度に基づく農林水産省の認定</p> <p>2) おいで！富田林プロジェクト</p> <p>① 事業スキームを検討し、モデル実施を行う。 近畿日本ツーリスト主催「ツーリズムビジネス研修」への参画、 ※大学生による観光商品の企画・販売（平成29年9月23日開催・2コース・45名参加） 観光コンテンツと担い手の発掘（そば打ち体験・富田林野菜のお弁当） 旅行サイト「TABIKA（たびか）」への参画（えび芋掘り体験ツアー）→台風のため中止</p> <p>3) (仮称)富田林市地域連携株式会社の設立準備プロジェクト</p> <p>① おいで！とんだばやし推進連携協議会の設立 農商工業・観光業関係団体代表者等による協議会設立、当該交付金事業の受託</p>								

平成29年度地方創生推進交付金事業評価・検証シート

担当課所見	<p>本事業では平成28年度地方創生加速化交付金活用事業の成果を踏まえ、さらなる産業間連携の強化が図られた。</p> <p>えび芋栽培委託により、新たに1件の生産者がえび芋栽培に取り組み、新規生産者の育成が図れた。</p> <p>直営販売に取り組んだ「えび芋コロッケ」は好調で、富田林寺内町の名物として成長しつつある。 また、仲卸事業者や大手小売事業者からの引き合いもあり、富田林えび芋全体のニーズも高まりつつある。</p> <p>おいで！富田林プロジェクトでは、「そば打ち体験」や「富田林産野菜のお弁当」などの新たなコンテンツの開発された。今後の本市の特色を生かしたコンテンツ開発に可能性を感じるとともに、担い手として連携を強化することによる波及効果が期待できる。</p> <p>(仮称)富田林地域連携株式会社の設立準備として、農商工業・観光業関係団体代表等により構成する「おいで！とんだばやし連携推進協議会」を設立のうえ、同協議会が当該交付金事業を委託により遂行し、事業実施主体の土台作りが図れた。</p> <p>以上に加え、平成29年度事業のKPIは達成されたことなどから、えび芋のポテンシャルの高さとマーケット形成への期待を再認識できた。 平成30年度以降については、えび芋の名物化とブランド化への取り組みに集中し、えび芋の高付加価値化による一点突破を目指すことが本事業の成功に大きく寄与するとの判断から、事業実施主体の設立及びその自立・自走を目指して、富田林えび芋のポテンシャル活用を中心として、さらなる農と商工業・観光業との連携の深化による新しい価値の創造とともに、供給力強化・販路開拓・PRなどに取り組んでいく。</p>
-------	---

本事業における重要業績評価指数(KPI)				内部評価(※)	実績値から見た今後の方針
	H29年度目標値	H29年度実績値	※【参考】平成32年3月	地方創生に非常に効果的であった	追加・拡充等、更に発展させる
本事業により創出された雇用者数	0人	2人	10人	地方創生に相当程度効果があった	事業内容の見直し(改善)
名物料理提供認定店舗数	3件	4件	18件	地方創生に効果があった	事業の継続
農業体験観光への参加者数	0人	45人	200人	地方創生に効果がなかった	事業の中止
本事業による関連商品の売上高	200千円	1,500千円	2,300千円		予定通り事業を終了

平成29年度地方創生推進交付金事業評価・検証シート

外部有識者の評価	●評価 (※)	地方創生に相当程度効果があった
	●個別意見(抜粋)	<p>・この事業の目標を端的に表せば、インターネット検索でえび芋と検索すれば富田林がトップに表示されるような状況となること。株式会社の設立と自立・自走に向けて本事業の方向性は良いと思うので、平成30年度はこれに向けた具体的な準備に着手することが必要と考える。</p> <p>・この事業においては農家が儲かり、希少なえび芋が安定供給されることで雇用の波及効果を生んでいくことが必要と考える。その際には、障がい者や高齢者の雇用、職住近接なども含め、地域の様々な人々が関わられる環境を整備していただきたい。</p> <p>・株式会社の自立・自走に向けて商業ベースでの検討が必要な時期に来ている。損益分岐を踏まえた事業計画、ファイナンス、キャッシュフロー、さらにはマーケティングなども含めた事業構想を立案し、儲かる仕組みの青写真を描いてほしい。</p> <p>・世間一般にはえび芋の認知はまだまだ低く、その発祥が富田林であることはなおさら知られていないように感じる。えび芋と言えば富田林となるよう、生産・供給も含めて知名度を上げてもらいたい。市民協働の観点から、えび芋のレシピ開発やコロケの販売などに関わりたいと考えて行動する主婦層も見込めるので、もっと民の力を活用してみてもどうか。</p> <p>・えび芋生産農家には、現在の取引で一定儲かることや栽培自体が重労働であること、他の作物と時期が重なることなどにより、規格外品も含めて、今以上の高付加価値化に踏み込めていない。栽培技術伝承の観点からも、儲かる特産品としての確立をめざして、ブランド強化に取り組んでいくべきと考える。</p> <p>・マスコミとしての立場から、今後のPRに工夫が必要と考える。露出のタイミングやえび芋にまつわるストーリー性の打ち出し、媒体についてはインスタグラムなどのSNSや市民によるクチコミ活用などを検討してはどうか。富田林は大阪都心部から近く、サバーファームや寺内町など魅力も多い。様々な当事者と連携して大阪随一の農業エリアとしてプロモーションできると考える。</p> <p>・観光においては、町全体を1つのコンテンツとする考え方が現在の主流となっている。農業と既存施設、飲食店、お土産、体験イベント、宿泊などが連携し、多様な人々が関わりながら富田林市全体がデパートのようになることが理想であり、これに向けてえび芋で一点突破をめざす方向性は良いと思う。このような考え方の関係者間での共有や生産者と消費者との交流を深めていくことなどが様々な結果に結びついてくると考える。</p>

※評価については内閣府が実施する効果検証結果報告の基準を準用。

評価	判断基準
地方創生に非常に効果的であった	実績値が目標値を上回っている場合
地方創生に相当程度効果があった	実績値が目標値の7～8割程度を達成している場合
地方創生に効果があった	実績値が事業開始前よりも改善した場合
地方創生に効果がなかった	実績値が事業開始前を下回った場合